

2026年4月のでがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のでがたんは5月9日(土)で、テーマは「野草でお花見」です。ぜひご参加ください。  
市民スタッフの皆さま、次回の下見は5月3日(日)です。

## 4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→博物館駐車場
- 観察日時／天気：2026年4月11日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数：13人(大人8人、中学生以下5人)
- 市民スタッフ：9人(石原直子、伊東茂子、北村章子、小泉伸夫、伴野茂樹、弘實さと子、古澤紀元、松田由美子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1名(村松和行)

## — 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものを含む

【鳥類】カラス科：ハシボソガラス／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ツバメ科：ツバメ／メジロ科：メジロ／スズメ科：スズメ／アトリ科：カワラヒワ

【昆虫】チョウ目：キタキチョウ／カメムシ目：チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、マルカメムシ／ハチ目：コマユバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ／コウチュウ目：コガタルリハムシ(幼虫)、マルガタゴミムシ、ナミテントウ、ナナホシテントウ

【軟体動物】チャコウラナメクジ

【草の花】キク科：チチコグサ、チチコグサモドキ、ノボロギク、ハハコグサ、オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ、ハルジオン、オニタビラコ／カタバミ科：カタバミ、イモカタバミ／イグサ科：スズメノヤリ／オオバコ科：オオイヌノフグリ、ツタバウンラン／ヒガンバナ科：ハナニラ／サギゴケ科：トキワハゼ／アブラナ科：ミチタネツケバナ／ナデシコ科：オランダミミナグサ、ノミノツヅリ／スミレ科：スミレ／ムラサキ科：キュウリグサ／マメ科：カラスノエンドウ／シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ／サトイモ科：ウラシマソウ／クサスギカズラ科：ムスカリ／キョウチクトウ科：ツルニチニチソウ

【木の花】バラ科：ヤマザクラ、オオシマザクラ、ユキヤナギ／ツバキ科：ツバキの仲間／クワ科：ヤマグワ／カバノキ科：イヌシデ／マツブサ科：シキミ／アオキ科：アオキ

【竹】イネ科：モウソウチク、マダケ



今回のテーマは「春の竹を観察しよう」でした。博物館の裏山からモウソウチクを1本切り出して、参加者の皆さんに竹を切ったり、ナタで割ったりする体験をしてもらいました。室内ではタケノコを切って内部の構造を観察したり、竹のコースター作り体験や<sup>たが</sup>籐の編み方で作る竹の指輪を紹介しました。



今月の案内人 村松 和行



① 固い土でも耐えられるように何層にも皮が重なる丈夫なタケノコの先端



② 剛毛がよく目立つモウソウチクのタケノコの皮

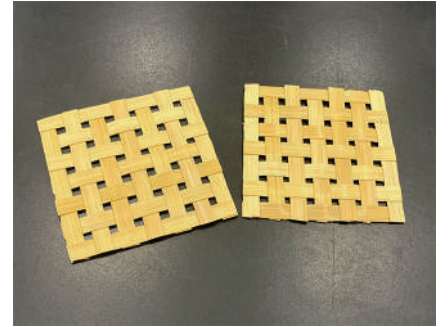
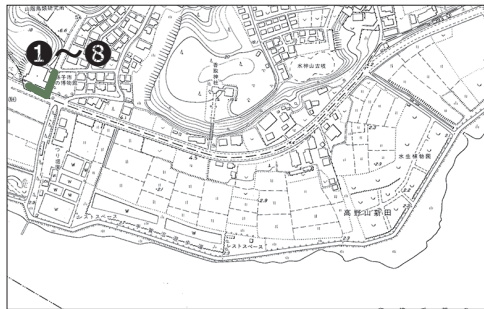


③ タケノコの底部の赤い点は、成長した時に体を支える根が出てくる部分



④ 籐編みで1本のヒゴから作った指輪

## 歩いたルートと観察した生き物



⑤ タケの身を使って作ったコースター



⑥ 節から出る枝の本数は種によって異なり、モウソウチクは同じ太さの枝が2本出る



⑦ 節の部分には風や雪で折れないように強度を高める仕切りのような構造がある



⑧ タケノコに栄養を送るため、春になると竹は黄葉して古い葉を落とすことから、俳句には「竹の秋」という春の季語がある

## 今月の特集 <sup>たが</sup>ことわざ「籐が外れる」

「籐が外れる」とは物事の制御がなくなったり、歯止めが効かない状態を意味します。籐とは桶や樽の板が外れないように締めて固定する輪状のもので、材料には主に竹や金属が使われます。竹の場合は数本の長いヒゴを編んで作ります。酒や醤油作りなどに使われる大きな桶や樽の籐を締めるには高い技術が必要で、昔から専門の職人の仕事でした。室町時代の将軍、足利義政の日記には「<sup>ゆいおけざしゅう</sup>結桶座衆」という記述があり、当時から技術者の集団がいたことがうかがえます。



みりん作りの木桶（流山市立博物館所蔵）



籐編みで2本のヒゴから作ったバングル